

STARBUCKS DECA

くに

サンタの国へのふしぎなたび

まつむら ちひで・作

林 恭三・絵



STARDUST * DECCA

くに

サンタの国へのふしぎなたび

まつむら ちひで・作

林 恭三・絵



あしたは、ボクの だいすきな クリスマス・イヴ。
だって サンタクロースが、すてきな プレゼントを
とどけてくれるんだもの。

でも いつだって ボクや いもうとが
ねむってからしか きてくれない。

サンタクロースって どんな ひとなんだろう。
どこに すんでいるのかなあ……。

「ママ、サンタクロースって どんな ひと？」

「さあ……。パパに きいてごらん。」

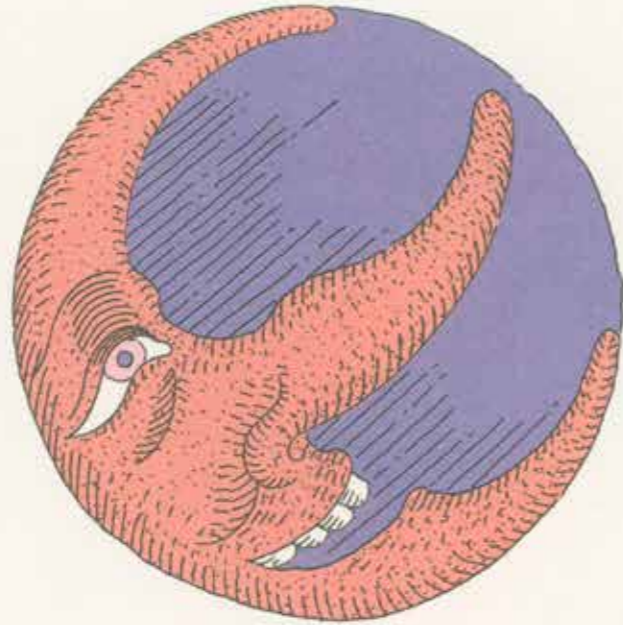
「パパ、サンタクロースって どこから やってくるの？」

「エッ……。パパは あったことないからなあ。」

あいたい あいたい……サンタクロースに あいたいなあ。



ボクは よぞらの ほしに きいてみることに したんだ。
だって ほしは あさまで ずーっと おきてるだろう。
きっと 知っているはずさ！
「ほしさん ほしさん おしえてください。
サンタクロースって どんな ひと？ どこに すんでるの？」
すると とつぜん、まぶしい ひかりが
ボクの へやに とびこんできた。



よく みると、それは ちっちゃな ほしの かけら。
てのひらに のせると なんだか ヌクヌク あったかい。
「ひょっとすると サンタクロースの ひみつを おしえに
きてくれたのかもしれないぞ。」
ボクは ほしの かけらを にぎって、もういちど、
おいのりしてみた。
「どうか サンタクロースに あわせてください……。」



きがつくと、ボクは まっくらな ところに いた。
なんだか オバケが でてきそうで ちょっぴり コワイ。
だけど ゆうきを だして あたりを みまわしてみると、
ずっと むこうに ほしが みえた。

「なーんだ ここは エントツの なかなのか。もしかして
やねの うえに サンタさんが いるかもしれないぞ……。」
ボクは ながい ながい エントツを のぼっていったんだ。



やっどこさ そとに できると、サンタクロース……

じゃなくて、へんてこな ゆきだるまが いた。

「なーんだ、ゆきだるまかあ。」

「せっかく むかえに きてあげたのに……あんまりだなあ。

ボクは、スノーウィー。

そんじょそこらの ゆきだるまとは ちがうんだぞお。」

「ごめん。じつは ボク、サンタさんに あいたいんだよ……。」

「だから ここが、サンタクロースの すんでいる

“スターダストアイランド” って ところさ。」

「ス・タ・ー・ダ・ス・ト・ア・イ・ラ・ン・ド？」

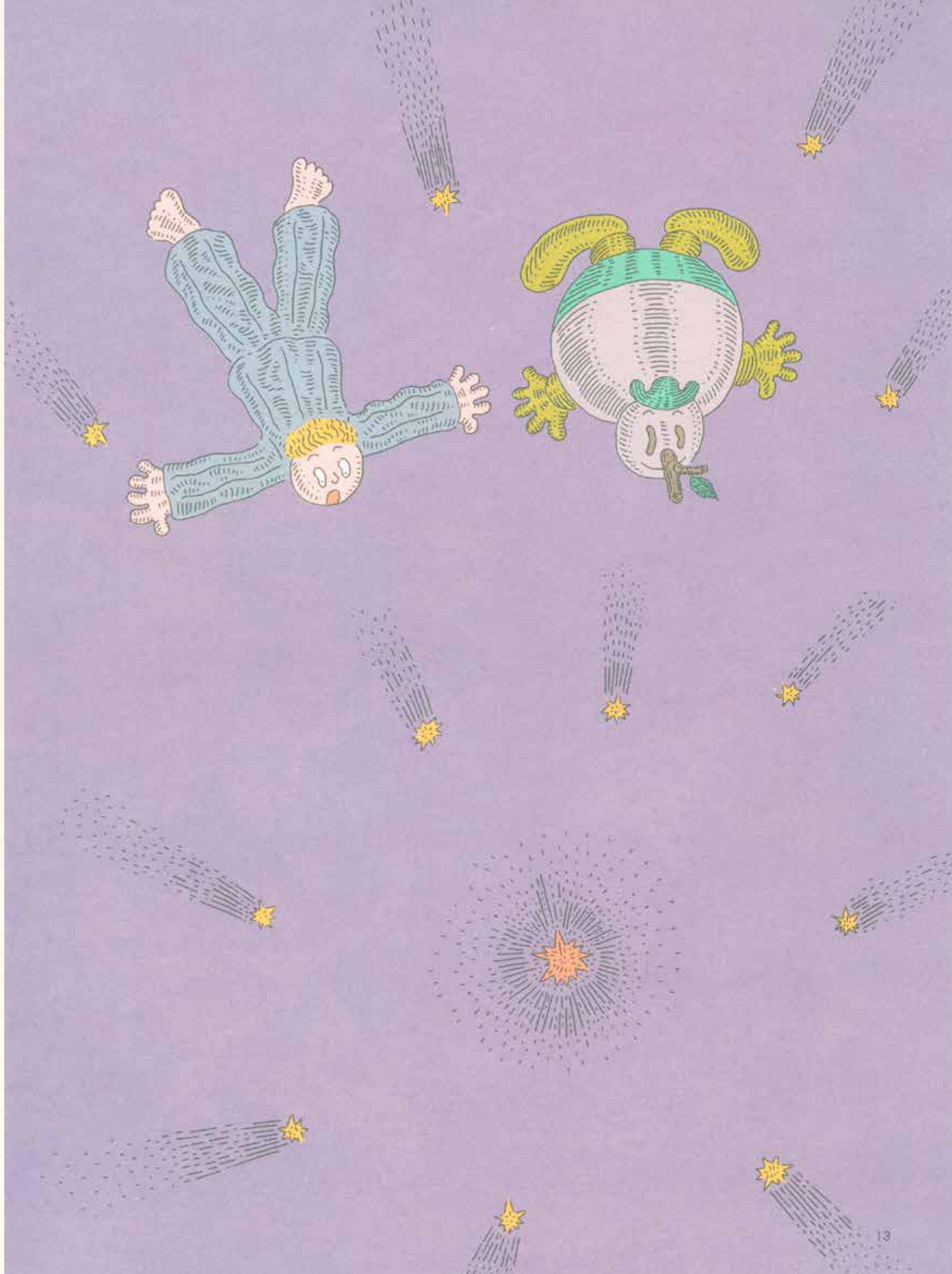


したを みてみると、なんと
あっちにも こっちにも そっちにも
サンタクロースが わんさ わんさ。



まじめサンタ おとぼけサンタ くいしんぼうサンタ、
ねこサンタ たこサンタ さぼてんサンタ……まで いるよ。
「エッ、みんな、サンタクロースなの。すごいなあ。」
「せかいじゅうの サンタクロースたちが、すんでるからね。
さあ、スターダストアイランドを あんないしてあげるよ。」

スノーウィーは ボクの てを とると、フワリと
そらに まいあがった。
そして こんな はなしを してくれたんだ。
「むかし、“サンタせいうん” っていう せいざが
だいばくはつしたんだ。そのとき、うちゅうに
ちらばった たくさんの ほしくずが、ふりつもって
できたのが スターダストアイランドってわけさ。
じつは この ほしくずは、ふしぎな チカラを
もっているんだよ。
どんな ゆめだって かなえられる チカラをね。
そんなわけで、ここには せかいじゅうの
ひとたちの ゆめを かなえる サンタクローズが
すむように なったのさ。」



「ごらん！ これが スターダストアイランドさ。
むこうに 見える こうじょうでは、
クリスマスの プレゼントをつくっているんだ。」
「でも どうして ポクたちの ほしいものが
わかっちゃうの？」
「それは、こうじょうの サンタクロースに
きいてごらんよ。」



「サンタさん、どうして ボクたちの ほしい
ものが わかるの？」
「それは この “まほうの むしめがね” で
こどもたちの ココロを のぞけるからじゃよ。」
「ほんとうに わかるのかなあ……。」
「な、なんじゃとお。
しんじないなら、おまえの ココロを
のぞいてみようか？
ほーら。みえてきた、みえてきた。
でも、ちょっと、よくばりじゃなあ……。」
「ばれちゃったね。エヘヘ……。」



「それじゃ、プレゼントは どうやって
つくるの？」

「ほら、こうやって、きの えだに
ほしくずを ふりかけると できあがり。」
「わあ、すごい。ボクにも やらせてよ。」

きかんしゃ、じどうしゃ、ひこうき、ロケット
それから オルゴールや ぬいぐるみ……。
ほかにも ほしが とびだす はなび……
なんてのも つくれるんだぞ。

そうそう、ほしくずの ペンダントってのは
きっと いもうとが よろこぶだろうな。



ほかにも サンタクロースたちは
いろんな しごとを している。
「わあー、みんな いそがしそうだなあ。
だけど すごく たのしそうだね。」
「ゆめを とどけるのが だいすきな のさ。
せかいじゅうの みんなが まっているから
てんてこまいで がんばっているんだよ。」



だから ボクも、サンタさんの しごとを
てつだうことに したんだ。

せかいじゅうの こどもたちから とどく てがみの
へんじに きってを はる おてつだい。

なにしろ たっくさん あるから

ペッタンコ、ペッタンコ、ペッタンコ、

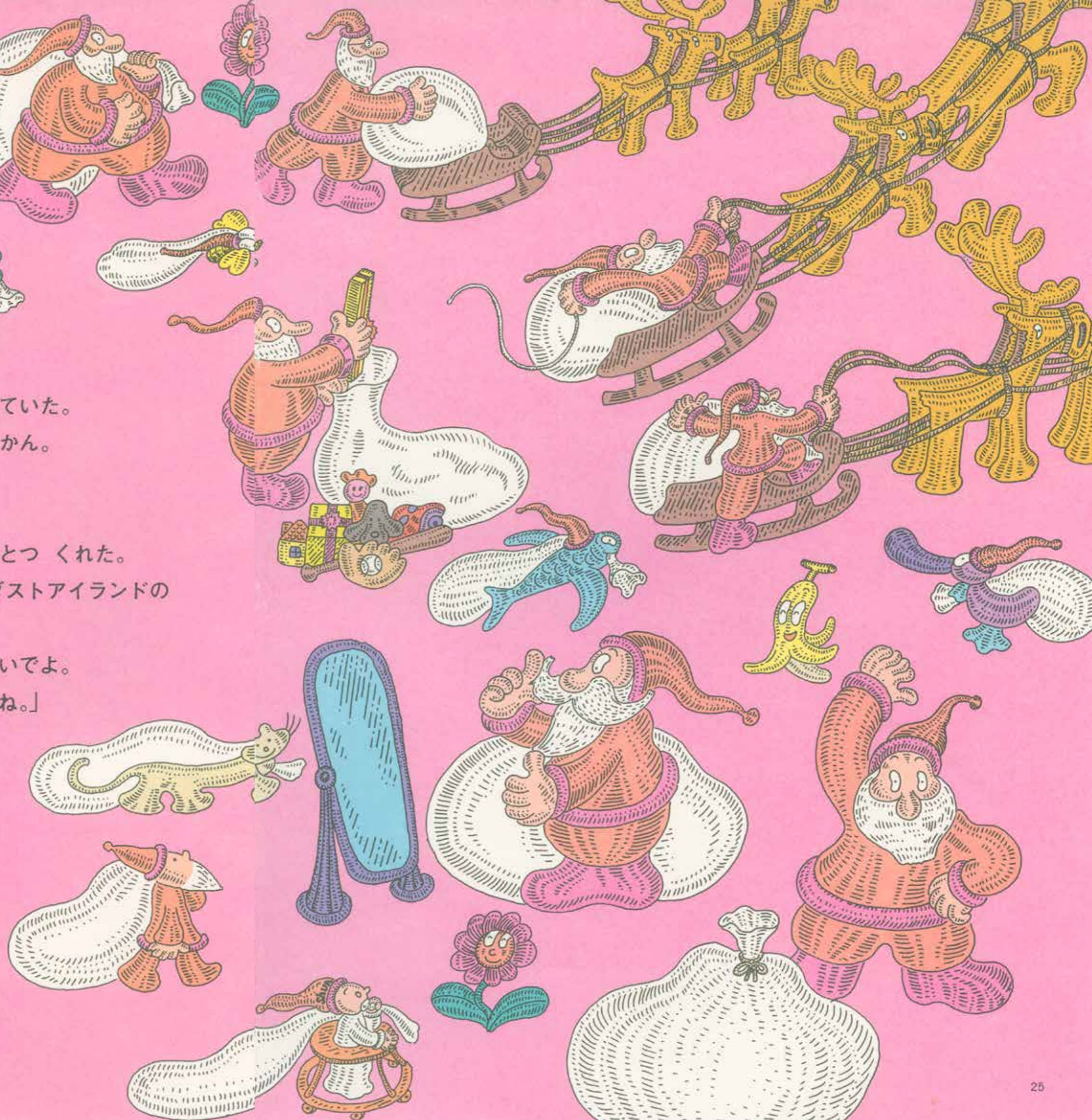
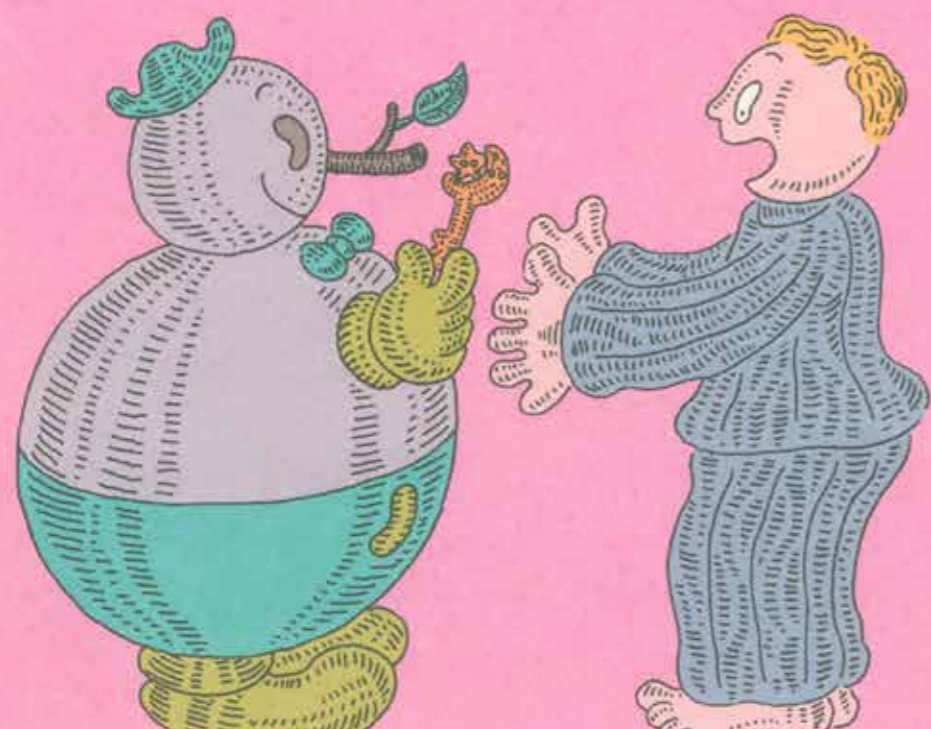
ペッタンコ、ペッタンコ、ペッタンコ、

はっても はっても、はっても はっても、
おわらないよう……。





いつのまにか クリスマス・イヴの あさになっ
ていた。そろそろ サンタクロースたちの しゅっぱつの じかん。
「てつだってくれて ありがとう。おかげで、
なんとか イヴに まにあったみたいだね。」
そういって スノーウィーは、ボクに カギを ひとつ くれた。
「これは “スターダストキー” といって、スターダストアイランドの
ひみつの とびらを あける まほうの かぎさ。
サンタクロースに あいたく なったら、また おいでよ。
こんどは キミが サンタクロースに なるためにね。」



「エッ、ボクが サンタクロースに……なれるの？」

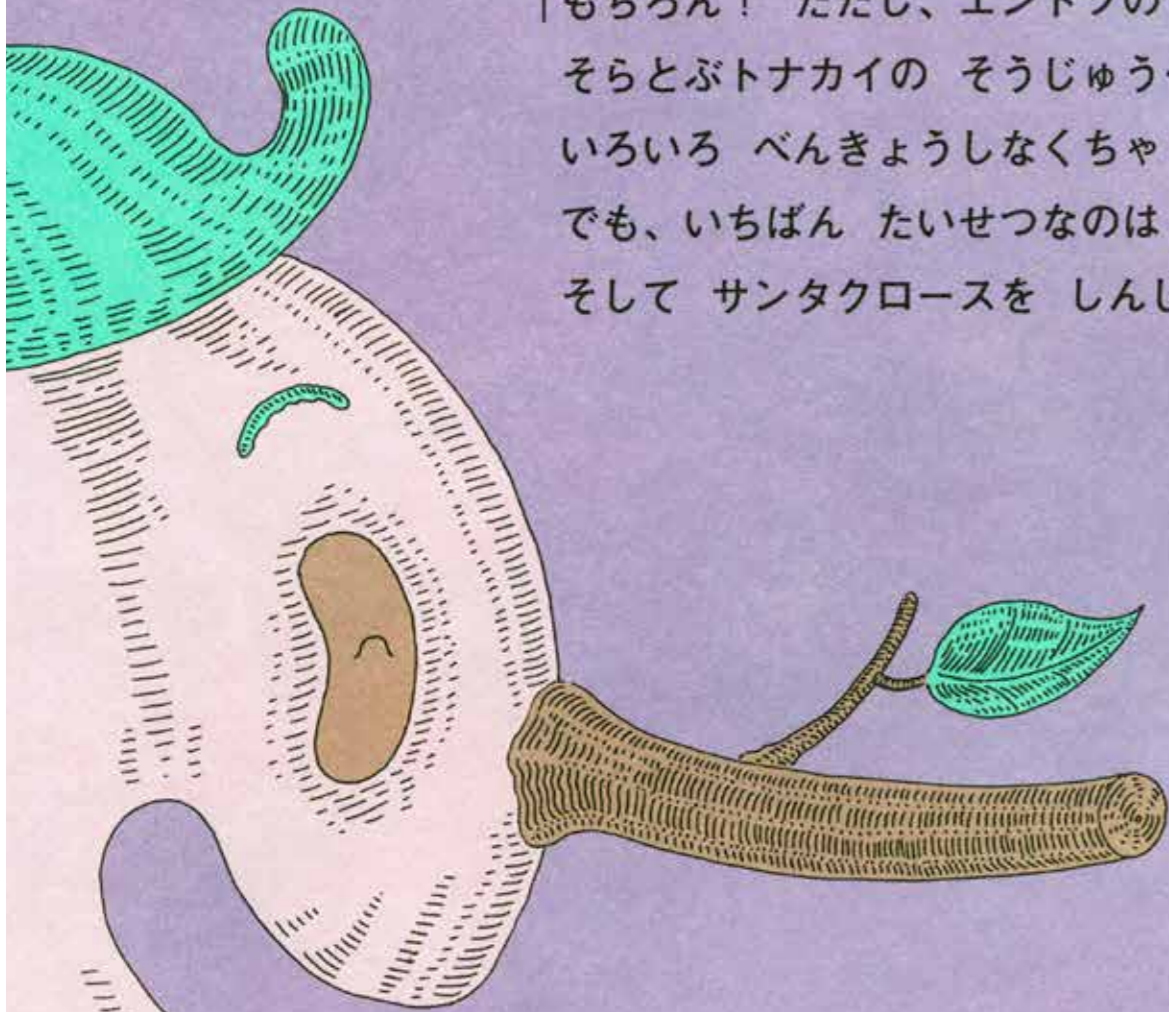
「もちろん！ ただし、エントツの くぐりかたや

そらとぶトナカイの そうじゅう……

いろいろ べんきょうしなくちゃ いけないけどね。

でも、いちばん たいせつなのは やさしさと ゆうき、

そして サンタクロースを しんじる ココロなんだ。」



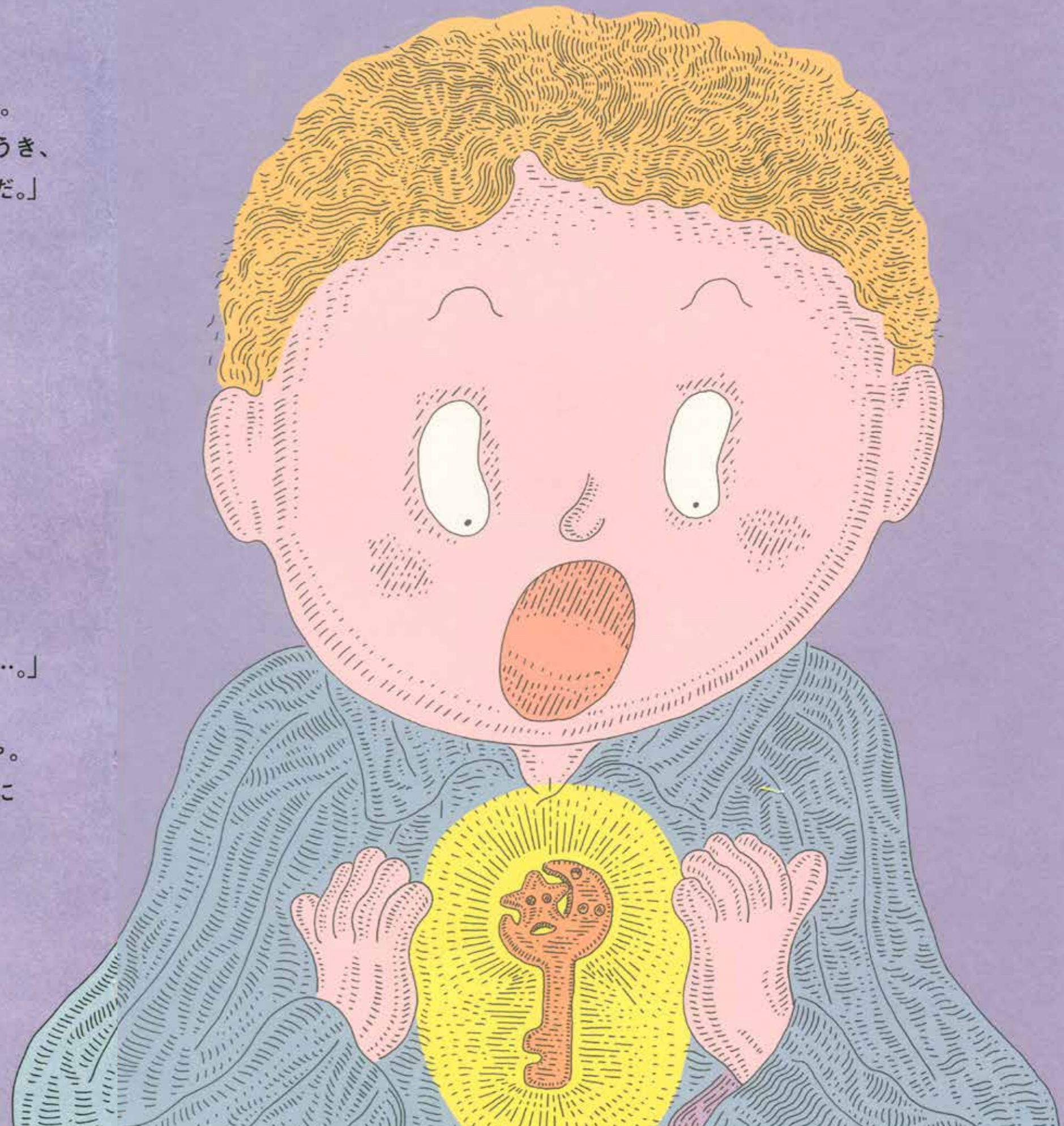
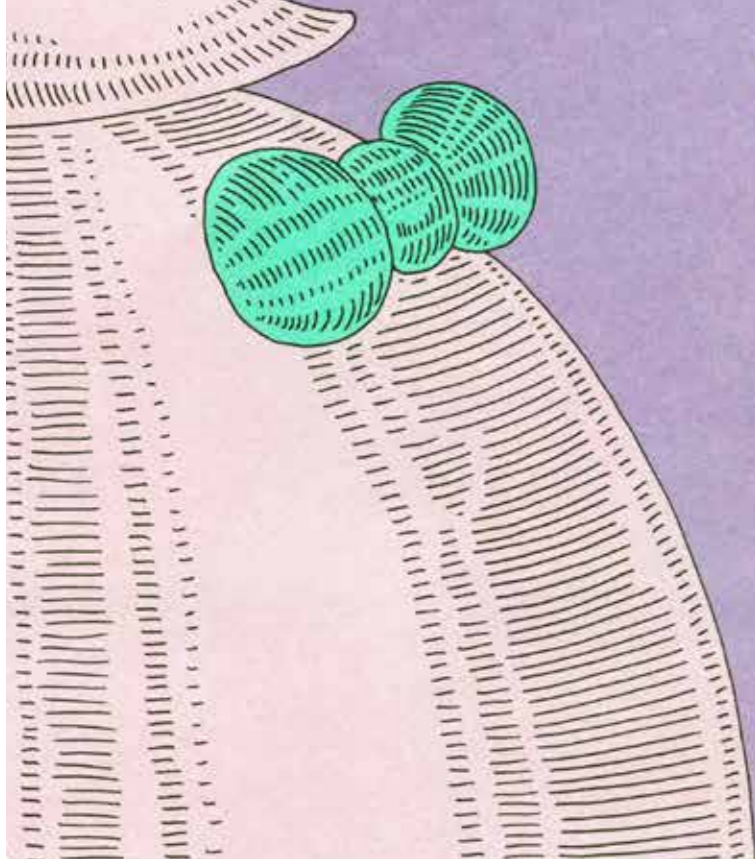
「うーん……。ボクに なれるかなあ……。」

「だいじょうぶさ。

さあ、キミは もう かえらなくっちゃ。

サンタクロースの そらとぶトナカイに

のせてもらえばいいよ。」





「また、きっとくるよ、スノーウィー！」
「こんどは、いもうとも つれておいでよ。
それじゃあな！」
そらとぶトナカイの そりで ほしぞらをはしるのは、
そりゃ、さいごうの きぶんだったよ。
あんまり きもちが よくって、
いつのまにか、ねむってしまったんだ。

「はやく おきなさい、なんじだと おもってるの？」

ママの おおごえで、ボクは めがさめた。

「あれっ、さっきのは ゆめだったのかなあ……。」

ところが、そとに でてみて ビックリぎょうてん。

スターダストアイランドで みた クリスマスツリーが、
ひろばに たっているじゃないか。

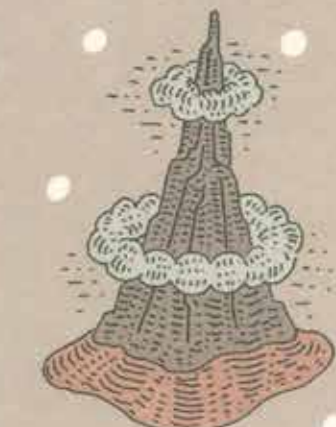
もちろん スターダストキーも あったさ。

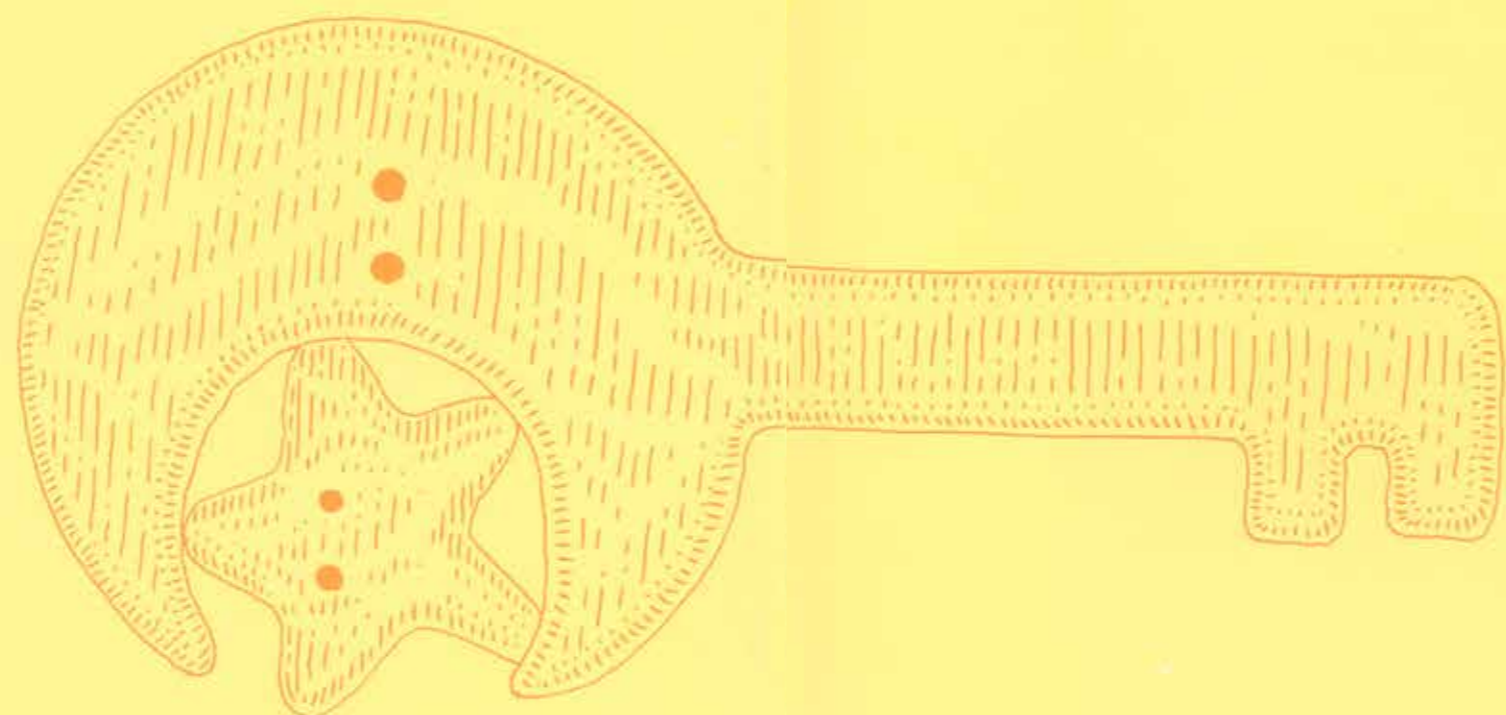
ウーン、ふしぎ、ふしぎ……。キミは どう おもう？

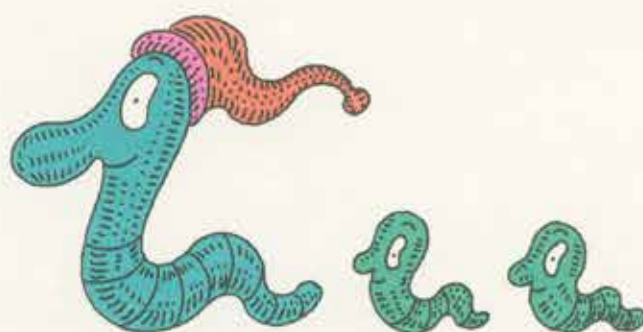
ボクは もう きめたんだ。

「いつか きっと、りっぱな
サンタクローズに なるんだ！」

……ってね。







えほんはともだち 16

STARDUST★LEGEND

サンタの^{くに}国へのふしぎなたび

1991年11月 第1刷

作・まつむら ちひで / 絵・林 ^{はやし} ^{きょうぞう} 恭三

発行者・田中治夫

編集・村地春子・吉田亮子

発行所・株式会社 **ポプラ社**

〒160 東京都新宿区須賀町5 振替・東京4-149271

電話・(営業)03-3357-2211 (編集)03-3357-2216 (ご注文)FAX・03-3924-5341

印刷・瞬報社写真印刷株式会社 / 製本・富士製本株式会社 / 企画・スターダストファクトリー / 協力・三井ホーム株式会社

© MATSUMURA, CHIHIDE / HAYASHI, KYOZO 1991年

ISBN4-591-03756-8 / N.D.C.913 / 31P / 29cm

◀落丁本・乱丁本はお取りかえします▶

えほんはともだち 16

ISBN4-591-03756-8 C8793 P1200E

ポプラ社



★
**STARDUST
FACTORY**